



書
評

今日の救急治療指針 第2版

監修 前川和彦, 相川直樹

編 杉本 壽, 堀 進悟, 行岡哲男, 山田至康, 坂本哲也

A5 頁984 2012年 定価 13,650円 (本体 13,000円 + 税5%)

[ISBN978-4-260-01218-8] 医学書院刊

＜書評者＞ 平出 敦 (近畿大学医学部主任教授・救急医学)

多様な救急ニーズに対応するために、 各専門家がエッセンスを込めて執筆

本書は、初版から15年の間使われてきた『今日の救急治療指針』の改訂版である。救急医学は、少子高齢化、産業構造の変化、交通安全社会の構築といった社会の構造変化の大きなうねりの中で、急速に変貌しつつある。

かつて救急医学が、重症救急患者や外因性救急を主な対象として組み立てられていた時代から、内因性の疾病を中心に多様な救急医療ニーズの増大に対応できる効率の高い組み立てが注目されるようになってきた。したがって、こうした多様な領域で、エビデンスに基づいた系統的な診療モデルに基づき、どんな医師でも確実な初期治療ができることが求められるようになってきた。

その意味で、この治療指針では多様な救急ニーズに対応できるように、それぞれの専門家がエッセンスを込めて執筆した内容となっている。

本書を一読して目立つのは、写真、画像、シェーマ、アルゴリズムである。こうしたツールは、救急診療の現場における多様性、不確実性を視覚的、実践的に変

換してくれるものである。同時に、近年の画像診断の進歩や、診療ガイドラインの整備を救急診療に反映したものととなっている。

臨床研修制度が必修化されて以来、学ぶ側からの教育視点が大きく導入されるようになってきた。本書にもこうした学ぶ側からの視点が生きており、実用性を重視した明確な編集方針が本書を使う側にとってうれしい内容となっている。

例えば、かつてのテキストは動脈カニューレションを行うに当たっては、アレンテストを行うべきであると記載されているにすぎなかったが、本書では実際に写真で方法を示してくれている。

また、医学的な事項だけでなく、当直時に実際に必要な内容をユーザーの視点から掲載している。例えば小児救急では、乳児突然死症例に関して、「カルテ保存用紙および法医・病理連絡用紙のチェックリスト」を提示しているなど、当直医を守るためにも欠かせない内容が掲載されており、役に立つ内容となっている。

本書は、携帯することで、現在の多様な救急ニーズに応えられる診療を実現できるという自信を与えてくれる。